

第8章 著者名典拠データ

2024年度から NACSIS-CAT が準拠する NCR2018 では、標目に代わり、より広義の概念である典拠形アクセス・ポイントという用語を使用し、これまでの著者標目は、NCR2018 における創作者等となる個人・家族・団体・会議に対する典拠形アクセス・ポイントとする。

典拠形アクセスポイントの基礎は優先名称である。優先名称とは、個人・家族・団体・会議を識別するために選択する名称である。優先名称は典拠形アクセス・ポイントの基礎としても使用する。優先名称として選択しなかった名称や、優先名称として選択した名称の異なる形は、異形名称として記録することができる。

ただし、日本語、中国語、韓国・朝鮮語およびラテン文字を用いる言語は表示形、それ以外の言語の優先名称は翻字形とする。翻字法は以下を参照する。

ALA-LC (<https://www.loc.gov/catdir/cpsd/roman.html>)

第8章1 個人名

この章では、著者名典拠データセットに登録すべき個人名のデータについて、新規入力におけるデータ記入の方法を示す。

個人に対する典拠形アクセスポイントの基礎は個人の優先名称である。個人の優先名称とは、個人を識別するために選択する名称である。優先名称はその個人に対する典拠形アクセス・ポイントの基礎としても使用する。優先名称として選択しなかった名称や、優先名称として選択した名称の異なる形は、異形名称として記録することができる。

流用入力及び修正におけるデータ記入の方法のうち、それぞれの章で特に規定されていない事項については、この章の規定に従ってデータ記入を行う。

8.1.0.2 日本名、日本名以外

8.1.0.2A (同一名称の異なる形)

個人の名称に複数の言語による形がある場合は、その著者が主に著作で使用する言語による形を優先名称として選択する。

主に著作で使用するによる形を容易に特定できない場合は、その個人の居住国、活動国で主に著作で使用する言語による形を選択する。主に著作で使用する言語あるいはその言語の名称が容易に判明しない場合は、最初に典拠データ作成時に用いた目録対象資料中本体に表記されている字種・字体のままを記録する。

ただし、日本語、中国語、韓国・朝鮮語およびラテン文字を用いる言語は表示形、それ以外の言語の優先名称は翻字形とする。翻字法は以下を参照する。

ALA-LC (<https://www.loc.gov/catdir/cpsd/roman.html>)

参照データセットにデータがある場合、上記方針と異なるものもそのまま登録してよい。

目録対象資料のタイトルと責任表示: The woman in the dunes / Kobo Abe

日本語で書かれた「砂の女」の英語翻訳が目録対象資料の場合の例

著者が主に著作で使用する言語の形は日本語

HDNG:安部, 公房, 1924-||アベ, コウボウ

個人の優先名称として選択しなかった名称を、異形名称として記録することができる。
また、優先名称として選択した名称の異なる形も、異形名称として記録することができる。

8.1.1.1 ID

8.1.1.1A [形式]

ID	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
データ ID	自動付与	固定長	10 バイト	1

8.1.1.1B [フィールド内容とデータ要素]

ID フィールドには、目録システムがそれぞれのデータに対して付与した英数字 10 桁から成るデータ ID が記録される。

目録システムは、データ ID によってそれぞれのデータの管理を行う。

8.1.1.1C [データ記入及び表示例]

データ ID は、目録システムに登録するタイミングで付与される。クライアントから目録システムに対して、新規作成典拠データ送信されると、目録システムは、新規に登録される典拠データに対して新たなデータ ID を付与する。

データ ID は、クライアントごとに表示の仕方が異なるが、不等号「<」と「>」の間に表示されることが多い。

<DA00089161>

データ ID は、目録システムが自動的に付与するものであり、目録担当者が入力することはできない。

8.1.2.1 HDNG

8.1.2.1A〔形式〕

HDNG	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
(Group Field) 典拠形アクセス・ポイント	必須 1	可変長		1
優先名称	(必須 1)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
識別要素	(必須 2)	(可変長)		
優先名称のヨミ	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
優先名称のその他のヨミ	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(2)

8.1.2.1B〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.2.1C〔フィールド内容とデータ要素〕

HDNG フィールドには、当該著者に対して優先的に用いる典拠形アクセス・ポイントを記録する。

HDNG のデータ要素は、優先名称、識別要素、優先名称のヨミ及び名称のその他のヨミである。

優先名称には著者の名前を記録する。

識別要素には著者の生没年、あるいは活動分野・職業をカンマのあとに記録する。没年については 8.1.2.1 F5.2 も参照すること。

世系は優先名称の最後に記録する。

展開形は、優先名称に丸がっこ(())に入れて付加する。

名称のヨミには、著者の名前に対応するヨミを記録する。

ただし、優先名称のその他のヨミについては、本項では取り扱わない。関連する各コーディングマニュアル等を参照のこと。

HDNG は一意的なものではなくてはならない。したがって名称等が一致するような場合は、何らかの識別要素を加えた形で記録する。

8.1.2.1D〔データ記入及び記入例〕

D1(優先名称)

D1.1

優先名称には、当該個人の識別のために選択した名称を記入する。

典拠形アクセス・ポイントとして採用する名称の情報源となる場所は当該資料本体中のいずれの場所からでもよい。また、単一の資料中の複数箇所に複数の異なる字種・字体が記載されている場合は、そのうちの最も共通性の高いものを選択採用する。

D1.2

著名な著者や多作な著者、作成時の目録対象資料の如何にかかわらず、最もよく知られた形、若しくは多くの参考資料に記載されている形を採用することができる。

D1.3

転記すべき字種・字体が現在のシステム上対応できない場合は、別途定める方法により、置き換え等を行う。

また、實際上無視しうる字形上の微細な相違は該当する標準的字形を当てるものとする。
(→ 1.1.2 転記の原則)

D1.4

世系については、優先名称の一部として必ず記録する。

林家, 正蔵 9 代目||ハヤシヤ, ショウゾウ 9 ダイメ
Paulus VI

D1.5

優先名称及び優先名称のヨミの記入は基本的には姓の後にコンマ、スペース(,△)を入れて、続いて名を記録する。しかしすべての場合において名称が「姓、名」の形をなしている訳ではない。したがって名称の形によって次のように分け、それぞれに記入方法を示す。

D1.6 姓及び名を持つ名称

D1.6.1

単純な姓名形の場合、姓と名の間コンマ、スペース(,△)を入れて記入する。名称のヨミも同じ形で記録する。

HDNG:山老, 成子||トコロ, シゲコ

HDNG:福田, 英子||フクダ, ヒデコ

HDNG :Ablon, J. Stuart

HDNG :De Morgan, Mary

HDNG:五百旗頭, 真, 1943-||イオキベ, マコト

(識別要素がある場合-1)

HDNG:梅若, 万三郎 12 代目, 1868-||ウメワカ, マンザブロウ

(識別要素がある場合-2)

HDNG :Shakespeare, William, 1564-1616

(識別要素がある場合-3)

HDNG:平塚, らいてう, 1886-1971||ヒラツカ, ライチョウ

(表記とヨミが異なる場合-1)

HDNG:酒井, シヅ, 1935-||サカイ, シズ

(表記とヨミが異なる場合-2)

D1.6.2

同姓同名が発生した場合は、識別要素に生没年、専攻分野又は職業等を記録して区別する。

HDNG:小野, 茂, 1925-||オノ, シゲル

NOTE:大阪大・人間科学・教授、文学博士

NOTE:生年は研究者・研究課題総覧 1990 年版による

HDNG:小野, 茂, 1930-||オノ, シゲル

NOTE:昭和女子大・文学・教授、文学博士

NOTE:生年は研究者・研究課題総覧 1990 年版による

HDNG:吉田, 一彦, 1936-, 教員||ヨシダ, カズヒコ

NOTE:国立国会図書館著者名典拠録第 2 版による

NOTE:滋賀県八日市市立船岡中学校教諭

HDNG:吉田, 一彦, 1936-, 英語学)||ヨシダ, カズヒコ

NOTE:研究者・研究課題総覧 1990 年版による

NOTE:神戸大・教養・助教授

D1.6.3

日系人や、外国籍の人との結婚等により、複数の姓を持つ場合のような複雑な姓名形を持つ著者の場合、その順序については基本的には最初に典拠データ作成時に使用した目録対象資料にある表記形、順序に従って記録する。

ただし、姓名を倒置させている著者については、「姓, 名」の形で記述する。またヨミも同じ形、順序で記録する。

HDNG :Meyer-Förster, Wilhelm, 1862-1934

HDNG:Ortega y Gasset, José, 1883-1955

D1.7 姓及び名のように慣用される名称

D1.7.1

画号、雅号、俳号等と姓若しくは名が一緒になって用いられ、全体で姓名形のように慣用されている名称については、画号、雅号、俳号等をもって姓若しくは名とみなし、全体を姓名形として D1.6 と同じ形で記録する。また名称のヨミも同じ形で記録する。

HDNG:正岡, 子規, 1867-1902||マサオカ, シキ

HDNG:加藤, 楸邨, 1905-||カトウ, シュウソン

HDNG:西村, 五雲, 1877-1938||ニシムラ, ゴウン

D1.8 姓及び名に模した、あるいは擬した名称

D1.8.1

実際の姓名ではないが、実際に存在する姓名であるかのような形をしたペンネームや芸名等の名称については、それぞれの要素を姓と名とにみなして分離し、姓名形として記録する。

HDNG:岡嶋, 二人||オカジマ, フタリ

(実際は徳山諄一と井上泉の共同ペンネーム)

HDNG :Queen, Ellery

(実際は Frederic Dannay と Manfred B. Lee の共同ペンネーム)

HDNG:三島, 由紀夫, 1925-1970||ミシマ, ユキオ

(本名:平岡, 公威は採用しない)

HDNG:十返舎, 一九, 1765-1831||ジッペンシャ, イック

(本名:重田, 貞一は採用しない)

D1.8.2

姓と名に分離することが困難な形をした通称やペンネームや芸名等の名称については、全体を一語とみなして記録する。ヨミは名称の各要素単位で分かち書きを行う。

HDNG:ジェームス三木, 1935-||ジェームス ミキ

HDNG:ビートたけし||ビート タケシ

D1.9 姓又は名のみ形、若しくは字、号のみがよく知られている場合

原則として、本名や正式な姓名が判明・確認できた場合でも採用しない。

HDNG:乙二, 1756-1823||オツニ
(本名:岩間, 清雄は採用しない)

HDNG:相阿弥||ソウアミ

HDNG:絵金, 1812-1876||エキン
(絵金は俗称である、また本姓の弘瀬は採用しない)

D1.10 姓名形をとらない名称

名称の全体をもって一語とする。あるいは目録対象資料に記されている形をそのまま転記する。

ヨミは名称の各要素単位で分かち書きを行う。

名称そのものがカタカナで、かつ分かち書きが存在しない場合は、ヨミを記入しない。

HDNG:プーフニャントラダムス||プーフ ニャントラダムス

HDNG:ムツゴロウ

HDNG:現役自衛官 X||ゲンエキ ジエイカン X

HDNG:Alain, 1868-1951

HDNG:Saki, 1870-1916

HDNG:Wood, Henry, Mrs., 1814-1887

D1.11 天皇・皇室の名称

D1.11.1

現行の天皇・皇室の名称の扱いについては、「天皇陛下」「皇后陛下」とする。「今上天皇」等の名称は採用しない。

HDNG:天皇陛下||テンノウ ヘイカ
(今上天皇、とはしない)

D1.11.2

現行の天皇・皇室以外の名称については、基本的に名称の全体をもって一語とする。ヨミは諡と天皇との間をスペースで区切る。

また、「上皇、大皇」等の名称は使用せず、「天皇」に統一する。

「親王」については「内親王」はその形が付された形が一般的に知られている場合は、採用する。その他「入道親王、法親王」等の名称は原則として採用しない。しかし、その名称の方が一般的であると判断される場合はその限りではない。

HDNG:昭和天皇, 1901-1989||ショウワ テンノウ

HDNG:後白河天皇, 1127-1192||ゴシラカワ テンノウ

(HDNG:後白河上皇, 1127-1192||ゴシラカワ ジョウコウ とはしない)

HDNG:昭憲皇太后, 1850-1914||ショウケン コウタイゴウ

HDNG:式子内親王, -1201||シキシ ナイシンノウ

D1.12 仏家、僧侶の名称

D1.12.1

仏家、僧侶の名称については、基本的には最もよく知られた名称を採用する。したがって一般的には法名、法諱等の名称を採用する。また尊称（大師、国師、上人、阿闍梨等）及び法名と共につけられる「釈」についてはこれを含めた形のもの採用しない。

ただし、禅宗の道号と法諱等の合成形については、その形がよく知られている場合には採用する。

HDNG:空海, 774-835||クウカイ

(俗姓の佐伯は記述しない。また弘法大師も採用しない)

HDNG:覚猷, 1053-1140||カクユウ

(鳥羽僧正の名前は採用しない)

HDNG:夢窓疎石, 1275-1351||ムソウ ソセキ

(夢窓国師の形は採用しない)

HDNG:円信||エンシン

(釈円信の形は採用しない)

D1.12.2

尼僧における「尼」の名称については、これを切り離さず、全体を1語とする。また、ヨミも全体で1語とする。

HDNG:慧信尼||エシンニ

(エシンニとはしない)

D1.13 その他

姓と名の間に「ノ」を入れて読まれる場合のヨミについては、原則として「ノ」は記録しない。

ただし例外的に姓が一音節の場合には姓のヨミに「ノ」を加えた形で記録する。また続

柄を表す「ノ」については前後にスペースを入れてその一文字のみを独立させた形で記録する。

HDNG:藤原, 公任, 966-1041||フジワラ, キントウ
(フジワラノ とはしない)

HDNG:菅原, 道真, 845-903||スガワラ, ミチザネ
(スガワラノ とはしない)

HDNG:小野, 篁, 802-852||オノ, タカムラ
(オノノ とはしない)

HDNG:紀, 長谷雄, 845-912||キノ, ハセオ
(姓が1音節の場合の例外)

HDNG:菅原孝標女, 1008-||スガワラ タカスエ ノ ムスメ
(続柄を示す「ノ」の場合の例外)

また架空、あるいは想像上の人物については、その名称の形によって上記の例のいずれかに対応させて「架空」「Fictitious character」またはその他適切な語句を記録する。

D2(識別要素)

D2.1

識別要素には、著者の生没年や世系等及び必要に応じて活動分野又は職業を記録する。

識別要素に用いる数字は原則として算用数字(アラビア数字)とし、生没年は西暦で記録する。

D2.2

識別要素は名称に続けてカンマの後ろに記録する。生年と没年の間はハイフン(-)でつなぎ、生没年以外の情報が入る場合は、生没年とその他情報とはスペースで区切る。

展開形は、ラテン文字等から成る個人の優先名称またはその一部が、イニシャル、略語、短縮形などである場合の完全な形である。ラテン文字等から成る優先名称に含まれなかった姓または名を含める形もある。優先名称のうちの名(または姓に相当しない部分)に対する展開形、および(または)優先名称のうち姓(または姓に相当する部分)に対する展開形は、丸がっこ(())内に記録する。

Schourup, Lawrence C. (Lawrence Clifford), 1947-

鈴木, 正義, 1911-||スズキ, マサヨシ

D2.3

識別要素の情報源については、典拠データ作成時に用いた目録対象資料のいずれの場所からでもよい。また、目録対象資料のいずれの場所にもない場合は、参考資料等から採用することができる。

特に識別要素が必要な典拠形アクセス・ポイントの場合は、D3.2 に示した手段(本人回答、出版者回答等)を用いて記録する。

D2.4

識別要素のヨミは記入しない。

D2.5

生年については、データ記入時に判明する限りにおいて記録する。(→ 8.1.2.1F 《注意事項》参照)

没年については、データ記入時、既に著者が物故者として没年が存在し、かつ参考資料等で確定できる場合は、その没年を記録する。また生年が判明せず、没年のみが知られている場合は、ハイフンの後に西暦で没年のみを記録することができる。

ただし、同姓同名等により、識別要素が必須であるにもかかわらず、生年あるいは専攻分野・職業等も判明・特定できず、没年のみが知られている場合は、その年を記録しなくてはならない。

D2.6

生年、あるいは没年が不明若しくは不定の場合は原則として、識別要素は記入しない。しかし、同姓同名の発生等により、識別要素が必須となる場合はこの限りではない。

また参考資料等の調査の結果、複数の生没年が通用している場合は、より多くの資料に記載されている方の年を記録することができる。

D2.7

専攻分野・職業については、典拠データ作成時に同姓同名・生年一致が発生した場合、若しくは、同姓同名で生年が判明しなかった場合のみに、識別の必要のため記録する。

D3(名称のヨミ)

D3.1

優先名称が日本語の場合、著者の名前に対応するヨミをカタカナで記録する。ただし、

名称中に英字、数字が含まれている場合はこの限りではない。この場合は、英数字はそのままヨミの部分に転記する。

D3.2

ヨミの情報源は典拠データ作成時に用いた目録対象資料のいずれの場所からでもよい。ヨミが存在しなかった場合、あるいは目録対象資料を情報源として採用しない場合は、次の手段によってヨミを調査し、採用・記録することができる。

- 1) 本人若しくは家族からの回答
- 2) 勤務先からの回答
- 3) ヨミの根拠を明らかにした典拠録、人名事典等の二次資料
- 4) 出版者からの回答

ただし、1)、2)の手段の多用は、相手側に対して迷惑になる可能性もあることに注意する。(→ 8.1.2.1F 《注意事項》 参照)

D3.3

D3.2 に示した手段によってもヨミが判明しない場合、若しくは上記のいずれの手段も行い得ず、ヨミの特定が不可能な場合は、常識的に考えられ得る推量形を記録し、その旨注記する。

D3.4

参考資料によって複数のヨミが存在し、かつそのうちのいずれかに特定できない場合は、当該目録対象資料の記述、若しくは(記述がない場合は)より多くの資料に記述されている形を採用するものとする。

8.1.2.1E (選択事項)

日本語の優先名称がすべてカタカナ、英字、数字から構成されている場合の名称のヨミについて、記録するかどうかは各参加機関が自由に選択する。ただし、分かち書きによる記述が可能な場合は検索時の便宜を考慮し、分かち書きによるヨミを記録する。

8.1.2.1F 《注意事項》

F1

著名な著者や多作な著者の、一般的に最もよく知られた形を典拠形アクセス・ポイントとして採用するかどうかについては、次の点を判断材料にする。

- 1) 大多数の著作に用いられている形
- 2) 多くの二次資料に記載されている形

しかし、この結果として現在ある典拠形アクセス・ポイントを修正・変更しなければならない場合は、原則として採用しない。(→第25章 著者名典拠データ(日本名)修正)

F2

名称が複数の著者からなる共同ペンネームである場合について、そのペンネームの下に実際の著作を行っている個人に、変更がないことが確認できる場合は、そのペンネームは原則個人名とみなす。

F3

中国、朝鮮・韓国人名の名称及び名称のヨミについては、それぞれ対応する規定を参照する。(→「中国語資料用コーディングマニュアル(案)」 「韓国・朝鮮語資料の取扱い」及び同解説)

F4 名称のヨミ

F4.1

ヨミの調査等に使用する二次資料については次のような資料が考えられる。

I. 近代以前(明治以前)の人名について

- (a) 国書データベース (<https://kokusho.nijl.ac.jp/>)
- (b) 大人名事典
- (c) 大日本人名辞書
- (d) 日本人名辞典 など

II. 近代以降(明治以降)の人名について

- (e) Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) (<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla>)
- (f) ORCID (Open Research and Contributor Identifier) (<https://orcid.org/>)
- (g) researchmap (<https://researchmap.jp/>)
- (h) 文化人名録(著作権台帳)
- (i) 人事興信録
- (j) 医学研究者名簿
- (k) 日本紳士録
- (l) 日本淑女録
- (m) 新訂現代日本人名録
- (n) 人物レファレンス事典 新訂増補版
- (o) 職員録(官公庁職員・議員等)

ここに挙げられている資料以外のものについても使用することは可能である。ただし、

その資料は原則としてヨミの根拠が凡例等に示されていることなどが必要である。

また逆に、目録対象資料に拠らず、上に記した資料の特定のいずれかを情報源として採用することも可能である。

しかし、いずれの場合においても、何を根拠としたのかを記録する必要がある。(→ 8.1.5.1 NOTE)

F4.2

名称に対するヨミは、原則として、本人が認めるところの固有のヨミである。しかし、このことを前提とした場合、名称のヨミの記述、決定が極めて困難になることが予想される。したがって、本規定では、基本的には目録対象資料中に存在するヨミを転記することで構わないものとする。

しかし、ヨミそのもののランク付けを行うなら、次のようになると考えられる。

1) 本人の回答

家族(若しくは遺族)の回答

2) 勤務先の回答

3) 各種人名録、人物事典、名簿等の二次資料中の記載

4) 出版者からの回答

知人、友人からの回答

仮に、既に HDNG に記載されている名称のヨミとは異なるヨミが複数の資料に記載されているようなことが発生した場合、ヨミを修正・変更するかどうかは上記のランク付けを基に検討することになる。

(→ 第 25 章 著者名典拠データ(日本名)修正)

F5 識別要素

F5.1

同姓同名が発生した場合の識別要素は原則として著者の生年である。しかし生年がどうしても判明しない場合は著者の職業、専攻分野、肩書を生年の代わりに記録する。さらに同姓同名かつ生年一致の場合には、生年に職業、専攻分野、肩書等をさらに記録する。生年に月日まで記録することはしない。(→ 8.1.3.4 DATE)

F5.2

識別要素とは、基本的には著者の同定・識別を行うために必要とされる情報を記録するためのものである。したがって、その意味において、著者の名称及びヨミのみで同定・識別が可能であれば、識別要素は必要ないことになる。しかし、総合目録データベースにおけるデータ表示法(簡略→詳細)、典拠データ作成後に同姓同名の発生する可能性等を考慮

した場合、生没年については、可能な限り記録する方向で考えることが望ましいともいえる。したがって、本規定では生年については判明する限りにおいて記録するものとする。

一方、没年については、著者の同定・識別には直接的には必要ない情報である。したがって、HDNG フィールド中に記述する必要はなく、基本的には DATE フィールドに記述すれば十分な情報と考えられる。また、すべて個人著者については将来、没年が発生することは必然であり、その都度 HDNG フィールドを修正する必要が発生することになる。このような状況を鑑み、没年については、典拠データ作成時にすでに物故者であり、没年が判明している者については、これを記録し、一方存命中にデータが作成された著者の没年については、基本的には HDNG フィールドの修正は行わず、DATE フィールドに記録するものとする。(→ 8.1.3.4 DATE、第 25 章 著者名典拠データ(日本名)修正)

8.1.3.1 TYPE

8.1.3.1A 〔形式〕

TYPE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
属性コード	必須 2	固定長	1 バイト	1

8.1.3.1B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.3.1C 〔フィールド内容とデータ要素〕

TYPE フィールドには、典拠形アクセス・ポイント(HDNG)に示される著者の属性をコード化して記録する。

8.1.3.1D 〔データ記入及び記入例〕

属性コードには、典拠形アクセス・ポイントに示される著者が個人であることを示す 1 桁のコード「p」を記入する。(→ 付録 1.7 その他のコード表)

HDNG:真野, 嘉長, 1925-||マノ, ヨシタケ

TYPE:p

8.1.3.3 PLACE

8.1.3.3A 〔形式〕

PLACE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
場所	選択	可変長	254 バイト	1

8.1.3.3B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.3.3C〔フィールド内容とデータ要素〕

C1

PLACE フィールドには、典拠形アクセス・ポイント(HDNG)に示される著者の出生地を記録する。

C2

PLACE フィールドは、その個人の出生地による検索、統計処理等を可能にするために設けられたフィールドである。

8.1.3.3D〔データ記入〕

D1

場所には、出生地の名称を記録する。

HDNG:坪井, 洋文, 1929-||ツボイ, ヒロフミ

PLACE:広島県

NOTE:「稲を選んだ日本人」(未来社, 1982) 奥付頁

D2

原則として都市名を記録する。識別に必要な場合は、国名、州名などを付記することができる。都市名が判明しない場合は、国名、州名、地域名などを記録する。

日本の市町村名を記入するときは、識別上の必要があれば、都道府県名を付記する。

市町村名が判明しない場合は、都道府県名を記入する。

HDNG:田畑, 忍, 1902-1994||タバタ, シノブ

PLACE:草津(滋賀県)

HDNG:松本, 享, 1913-||マツモト, トオル

PLACE:北海道

HDNG:Goethe, Johann Wolfgang von, 1749-1832

PLACE:Frankfurt am Main

D3

現行の行政区分では用いられなくなった地名については、当時の形を記録する。そして、

その地名に対応する現行の地名が判明する場合は、現行の地名も記録することができる。

HDNG:馬場, 文耕, 1718-1758||ババ, ブンコウ

PLACE:伊予国

NOTE:日本人名大事典(平凡社)による

D4

出身地が旧植民地である場合は、当時の地名を記入する。地名が判明しない場合は、地域名(満州、台湾等)を記録する。また、識別上の必要があれば、地名の後に地域名を付記する。あるいは、現行の地域・国名を付記してもよい。

なお、朝鮮半島については、当時の地名が判明しない場合の地域名としては、「朝鮮」のみを採用し、かつ必要ならば、現在使用されている国名等を付記する。なおその際の国名等は現在慣用的に用いられている国名等としてよい。

HDNG:石田, 晴久, 1936-||イシダ, ハルヒサ

PLACE:台湾

HDNG:加藤, 登紀子, 1943-||カトウ, トキコ

PLACE:ハルビン(中国東北部)

NOTE:出生地の追加は「日本語の響きで歌いたい」(日本放送協会, 1990) 奥付頁

HDNG:碓井, 益雄, 1911-||ウスイ, マスオ

PLACE:京城(韓国 ソウル市)

8.1.3.3E 《注意事項》

仮に詳細な単位までの出身地が判明したとしても、記録は市区町村単位までに留め、それ以下の地名等は記述してはならない。これは個人名については各個人のプライバシー上の問題が発生する可能性があるためである。

8.1.3.4 DATE

8.1.3.4A 〔形式〕

DATE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
時間	選択	可変長	254 バイト	1
生年	(選択)			
没年	(選択)			

8.1.3.4B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.3.4C〔フィールド内容とデータ要素〕

C1

DATE フィールドには、その個人の時間情報をコード化して記録する。

DATE フィールドのデータ要素は、生年及び没年である。

生年には、典拠形アクセス・ポイントに示される個人の生年月日に対応する西暦年を記録する。

没年には、典拠形アクセス・ポイントに示される個人の没年月日に対応する西暦年を記録する。

C2

DATE は、典拠形アクセス・ポイントにかかわる時間情報による検索、統計処理等を可能にするために設けられたフィールドである。

8.1.3.4D〔データ記入及び記入例〕

D1

生年及び没年には、西暦年を記入する。

生年と没年の間には、ハイフン(-)を記入する。

HDNG:阿部, 次郎, 1883-1959||アベ, ジロウ

DATE:1883-1959

HDNG:清原, 夏野, 782-837||キヨハラ, ナツノ

DATE:782-837

HDNG :La Salle, Jean Baptiste de, Saint, 1651-1719

DATE:1651-1719

D2

生没年が推定年であっても、生年及び没年には対応する西暦年を記入する。

生没年に対応する西暦年が不明の場合は、不明部分の数字を省略する。

DATE:1918?-1995

8.1.3.4E (選択事項)

生年及び没年が判明している場合、生年及び没年をともに記入するかどうかは、各参加

組織が自由に選択する。

8.1.3.4F 《注意事項》

F1

没年が不明の場合は、生年に対応する西暦年のみを記入する。

HDNG:栗林, 彰, 1965-||クリバヤシ, アキラ

DATE:1965

F2

生年が不明の場合は、まずハイフンを記入し、その直後に、没年に対応する西暦年を記入する。

HDNG:源, 重之, -1000||ミナモト, シゲユキ

DATE:-1000

HDNG:鈴木, 貞斎, -1740||スズキ, テイサイ

DATE:-1740

F3

ハイフンは、生年の直後に記入する。また、没年は、ハイフンの直後に記入する。
ハイフンの前後にスペースを記入してはならない。

F4

生没年月日までが判明したとしても、記述は年までに留め、月日は記述してはならない。
これは著者各個人のプライバシー上の問題が発生する可能性があるためである。

8.1.4.1 SF

8.1.4.1 A [形式]

SF	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
(Group Field) から見よ参照形	選択	可変長		32
統一標目形フラグ*	(選択)	(固定長)	(1 バイト)	(1)
名称	(必須 1)	(可変長)	(254 バイト)	
識別要素	(必須 2)	(可変長)		
名称のヨミ	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	

名称のその他のヨミ	(必須2)	(可変長)	(254バイト)	(2)
-----------	-------	-------	----------	-----

*統一標目形フラグは、使用しなかった目録規則に基づく標目形を記録する必要がある場合に記録していたが、NCR2018 適用以降は和洋の目録規則を統一したため記録しないこととする。

8.1.4.1 B [記述文法]

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.4.1C [フィールド内容とデータ要素]

C1

SF フィールドには、典拠形アクセス・ポイントとして採用しなかった異形アクセス・ポイントを記録する。

異形アクセス・ポイントには、異なるヨミによる別形、異なる字体による別形、あるいは典拠形アクセス・ポイントには採用しなかった同一著者のその他のペンネームや本名等を記録する。

ただし、名称のその他のヨミについては、本項では取り扱わない。関連する各コーディングマニュアル等を参照のこと。

C2

このフィールドは、典拠形アクセス・ポイントには採用されなかった異形からの検索を可能にするために設けられたフィールドである。

8.1.4.1D [データ記入及び記入例]

D1 異なるヨミによる別形の記入

ある名称に対して、HDNG に記録された名称のヨミとは異なるヨミが存在する、あるいは知られているような場合は、それぞれのヨミを記録することができる。

HDNG:高野, 素十, 1893-1976||タカノ, スジュウ

SF:高野, 素十||タカノ, ソジュウ

HDNG:山田, 統, 1906-||ヤマダ, スメル

SF:山田, 統, 1906-||ヤマダ, トウ

D2 異なる字体による別形の記入

例えば新字体と旧字体、正字体と俗字体といったような字体の差異によって複数の表記形が存在するような場合は、HDNG に採用しなかった字体を SF フィールドに記録するこ

とができる。

また、漢字形に対して、他にローマ字翻字形やその他翻字形が存在するような場合はその表記形を記録することもできる。

HDNG:澁澤, 龍彦, 1928-||シブサワ, タツヒコ

SF:渋沢, 竜彦, 1928-||シブサワ, タツヒコ

(旧字体と新字体の相違)

HDNG:加藤, 恵正, 1952-||カトウ, ヨシマサ

SF:Katoh, Yosimasa

(ローマ字翻字形の別形の一例)

ただし、異なる字体が、当て字等を利用したペンネーム的な使用を目的としたものである場合はこの限りではない。この場合、使用傾向等を勘案して、SF フィールドに記録するか SAF フィールドに記録するかは検討する必要がある。

D3 典拠形アクセス・ポイントには採用しなかった同一著者のその他ペンネーム等の記入

SAF フィールドには記録されないペンネーム等の名称は SF フィールドに記録する。

同様にペンネームや通称の方がよく知られ、その形で HDNG が作成されているような場合の本名、また典拠形アクセス・ポイントとされなかった改姓前後の名称についても、必要に応じて SF フィールドに記録する。

HDNG:渡辺, 保, 1936-||ワタナベ, タモツ

SF:渡辺, 邦夫||ワタナベ, クニオ

HDNG:佐藤, 要人, 1918-||サトウ, ヨウジン

SF:佐藤, 要, 1918-||サトウ, カナメ

HDNG:Carroll, Lewis, 1832-1898

SF:Dodgson, Charles Lutwidge, 1832-1898

8.1.4.1E [フィールドの繰り返し]

から見よ参照形が複数ある場合は、SF フィールドをその数だけ繰り返して、参照形を記録する。

8.1.4.1F 《注意事項》

F1

同一人物に対して複数の名称が知られている場合、その名称を SF フィールドに記録するか SAF フィールドに記録するかは次の点を考慮して判断する。すなわち、次のような場合は、SAF フィールドに記録する。

- (1) ある時期に、その名称を恒常的に使用し、その名称の下に複数の著作が知られている
- (2) ある分野で、その名称を恒常的に使用し、その名称の下に複数の著作が知られている

一方、ある特定の著作のみにしか用いられていない、あるいは著作物ごとに名称を変更している場合は、SF フィールドに記録する。

F2

あるペンネーム等のみが知られ、本名を示す必要性が乏しい場合は、NOTE フィールドに記録する。

F3

異なるヨミが存在する場合で、名字のみに対応したような「一般的な参照」は記録してはならない。

(誤)

HDNG:坂上, 広一||サカガミ, ヒロイチ

SF:坂上||サカウエ

SF:坂上||サカノウエ

(名にあたる部分がなく、名字のみの異なりヨミを記入している誤例)

F4

同じ字形であることを理由に、名称のヨミのみの、から見よ参照は作成しない。

(誤)

HDNG:坂上, 広一||サカガミ, ヒロイチ

SF:サカガミ, ヒロカズ

SF:サカウエ, ヒロイチ

F5

逆にヨミが同じであることを理由に漢字形のみの、から見よ参照は作成しない。

(誤)

HDNG:坂上, 広一||サカガミ, ヒロイチ

SF:坂上, 廣一

8.1.4.2 SAF

8.1.4.2 A 〔形式〕

SAF	入力レベル		属性	フィールド長	繰り返し数
	1)	2)			
(Group Field) からも見よ参照形	選択		可変長		32
名称	(自動付与)	(必須 1)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
識別要素	(〃)	(必須 2)	(可変長)		
名称のヨミ	(〃)	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
名称のその他のヨミ	(〃)	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(2)
データ ID	(〃)	(不使用)	(固定長)	(10 バイト)	(1)

8.1.4.2 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.4.2 C 〔フィールド内容とデータ要素〕

C1

SAF フィールドには、相互参照先の著者名典拠データの典拠形アクセス・ポイントを記録する。

相互参照先の著者名典拠データとリンク関係を成立させた場合には参照先のデータ ID が含まれる。

名称のその他のヨミについては、本項では取り扱わない。関連する各コーディングマニュアル等を参照のこと。

C2

SAF フィールドは、複数の典拠形アクセス・ポイントを持つ個人において、それぞれを関連づけるために設けられたフィールドである。

同一人物に対して複数の名称が知られている場合、その名称を SF フィールドに記録するか SAF フィールドに記録するかは次の点を考慮して判断する。すなわち、次のような場合は、SAF フィールドに記録する。

(1) ある時期に、その名称を恒常的に使用し、その名称の下に複数の著作が知られている

(2) ある分野で、その名称を恒常的に使用し、その名称の下に複数の著作が知られている

一方、ある特定の著作のみにしか用いられていない、あるいは著作物ごとに名称を変更している場合は、SF フィールドに記録する。

8.1.4.2D [データ記入及び記入例]

D1

相互参照先のデータとリンク関係を成立させる場合は、システムが自動的に参照先の典拠形アクセス・ポイント(HDNG)を SAF フィールドに埋め込むので、目録作成者は記録する必要はない。

HDNG:折口, 信夫, 1887-||オリクチ, シノブ
SAF:釈, 迢空, 1887-||シヤク, チョウクウ <DA05613561>

HDNG:福地, 源一郎, 1841-1906||フクチ, ゲンイチロウ
SAF:福地, 桜痴, 1841-1906||フクチ, オウチ <DA01083910>

HDNG:塙, 陽子||ハナワ, ヨウコ
SAF:福地, 陽子||フクチ, ヨウコ <DA02864860>
NOTE:旧姓:福地

D2

相互参照先のデータとリンク関係を成立させない場合は、目録作成者が参照先の典拠形アクセス・ポイントと一致した形を記録する。

D3

ある特定の著者に対し、複数のアクセス・ポイントが作られるのは次のような場合がある。

(1) 改姓が発生した場合

結婚や養子等の関係上、姓が変わることがある。このような改姓が発生した場合、改姓前・改姓後の双方で著作があれば、それぞれの名称をアクセス・ポイントとして採用する。
(NCR2018 #6.1.3.1A 別法を適用)

(2) 複数のペンネームを著作の分野、あるいは媒体によって明確に使い分けている場合

本名とペンネーム、あるいは複数のペンネーム同士を著作の分野や内容、または媒体などによって明確に使い分けていることがある。このような使い分けがなされている場合は、

それぞれの名称を典拠形アクセス・ポイントとして採用することができる。

ただし、あまりに頻繁にペンネームを変更するなど、使い分けているとはいいがたいときには、最初に典拠データ作成時に使用した目録対象資料にある形、若しくは最も一般的によく知られた形をもって唯一のアクセス・ポイントを決定し、その他の形はSFフィールドに記録する。(NCR2018 #6.1.3.1B を適用)

(3) ある特定の名称が知られており、かつその名称が変更されることがある場合

例えば、ある一時期においてよく知られていた名称が、何らかの都合で変わることがある((1)の場合は除く)。そのようなとき、変更の前と後とをそれぞれアクセス・ポイントとして採用することもできる。(NCR2018 #6.1.3.1A 別法を適用)

(例) 千代の富士, 貢 ⇄ 陣幕, 貢 ⇄ 九重, 貢

(更に本名は別にあるが、こちらの方がよく知られており、かつ変更される)

8.1.4.2E [フィールドの繰り返し]

からも見よ参照形が複数存在する場合は、SAF フィールドをその数だけ繰り返して記録する。

8.1.4.2F 《注意事項》

F1

リンク関係を成立させない場合とは、その名称での著書があることが知られているが、総合目録データベースにはまだその資料が登録されていないような場合がある。

F2

SAF フィールドに字体の相違による参照形、使用した目録規則の相違によるアクセス・ポイント等、本来ならば別途に典拠データを作成しない形を記述してはならない。これらは、必要に応じてSFフィールドに記録する。

F3

SAF フィールドに対して、なぜ参照としたのか、どのような参照であるのかといった説明的文言、いわゆる「説明付き参照」は記録してはならない。これらは、必要に応じてNOTEフィールドに記録する。

8.1.5.1 NOTE

8.1.5.1A [形式]

NOTE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
注記	必須 1	可変長	1024 バイト	128

8.1.5.1B〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

8.1.5.1C〔フィールド内容とデータ要素〕

C1

NOTE フィールドには、データ作成・修正に関する各種情報を記録する。

C2

NOTE フィールドには他のフィールドには記述できないが、各参加機関が必要とする各種情報を記録するために設けられたフィールドである。

8.1.5.1D〔データ記入及び記入例〕

D1 典拠形アクセス・ポイントの決定の根拠とした情報源を記述する典拠注記

典拠形アクセス・ポイントの決定の根拠とした資料が、典拠データを最初に作成する際に用いた目録対象資料である場合は、書名・出版者・出版年及び資料中のどこに記述されていたかを記録する。また最初に典拠データ作成時に用いた目録対象資料ではない場合は、根拠とした資料名・出版者及び出版年若しくは年版の表示又は版の表示を記録する。さらに何らかの資料に拠ったのではなく、本人からの回答、出版者からの回答、推量による記述等の場合にもその旨を記録する。

NOTE:「ウィーン精神」(みすず書房, 1986) の奥付による

NOTE:研究者・研究課題総覧 1990 年版による

NOTE:生年は「現代日本人名録」(日外アソシエーツ, 1987)による

NOTE:アクセス・ポイントのヨミは推量形

NOTE:ヨミは本人回答による

D2 典拠形アクセス・ポイント等の追加・修正事項と修正の根拠とした情報源を記述する修正注記

典拠形アクセス・ポイントの修正、その他の各フィールドの追加・修正に当たって根拠とした情報源を記録する。この注記の詳細は、「第 15 章 著者名典拠データ (日本名) 修正」の該当条項を参照せよ。

D3 著者個人の同定識別に必要な各種情報注記

D3.1

新規に典拠データを作成した後、新たに書誌データとリンク関係を形成しようとする際に、目録対象資料中の著者と典拠データのアクセス・ポイントに示された著者とが同一人

物であるかどうかの判断を容易に行えるようにするため、同定識別上必要と思われる著者に対する情報を記録する。

この各種情報は必ずしも目録対象資料中に存在するものである必要はない。各種人名事典等、二次資料であっても構わない。

ここに記録できる情報は可能な限り、広く一般に公開されている情報とし、また必要以上に詳細な情報である必要はない。

資料中の著者略歴や、人名事典から引用する際は、著作権の侵害にならないよう注意する。

D3.2

同定識別に用いられる各種情報としては次のようなものが考えられる。

- (a) 授与された学位(博士号)の種類,専攻
- (b) 現在の職業,勤務先,肩書
- (c) 所属する学協会や同人会の名称

D3.3

また同定識別には直接重要な情報を提供する訳ではないが、NOTE に記録される可能性のある情報として次のようなものがある。

- (a) 複数の生没年が知られている場合で DATE フィールドに記述されなかった生没年
- (b) 最終学歴、最終出身学校名(但し、大学以上とする)
- (c) その名称では著作がない場合における著者の本名・旧姓等

NOTE:九州大学文学部助教授, 文学博士

NOTE:専攻:精神医学

NOTE:原子力燃料工業(株)監査役

NOTE:東京第二弁護士会所属, 弁護士

NOTE:翻訳業

NOTE:開業医

D4 典拠形アクセス・ポイントと採用しなかったその他参照形との関係を示す情報注記

D4.1

典拠形アクセス・ポイントに採用しなかった形で、目録対象資料の規定の情報源に記述されている形を記録した場合は、その根拠となった情報源等を記録する。

NOTE:出版社に問い合わせた結果、漢字の表記形を出版物ごとに変更していると判明

NOTE:国内刊行洋図書に表記されたローマ字形

D4.2

さらに典拠形アクセス・ポイントに採用しなかった形で、目録対象資料の規定の情報源に記述されていない形ではあるが、参考資料等に記載されており、SF フィールドに記述されたものについてはその形がどのような参考資料によったのかを記録する。

D4.3

SAF フィールドに記録された情報について、当該データ間の関連の種類を記録する必要がある場合は、その旨を記録する。

HDNG:藤本, 弘

SAF:藤子, 不二雄||フジコ, フジオ

NOTE:SAF フィールド中のアクセス・ポイントは、当該アクセス・ポイントとして記載されている人物が安孫子素雄と共同して著作を表している場合のアクセス・ポイント

D5 典拠データ作成時に用いた目録対象資料の書誌的情報

典拠データ作成時に用いた目録対象資料を典拠形アクセス・ポイントの決定の根拠としなかった場合でも、典拠データを最初に作成した時の目録対象資料についての書誌的情報を記録する。

NOTE:研究者・研究課題総覧 1990 年版による

NOTE:『シェイクスピア』（慶應義塾大学法学研究会, 1984）

8.1.5.1E〔フィールドの繰り返し〕

1つのフィールドには原則として1つの情報を記録する。複数の情報を記録する場合は、NOTE フィールドを必要な数だけ繰り返す。NOTE フィールドの順序については問わない。

8.1.5.1F《注意事項》

F1

注記のうち、典拠形アクセス・ポイントの作成根拠とした情報源については、必ず記録しなければならない。

F2

著者個人の同定識別のために記録される各種情報については、必要最小限に留めることが、個人情報の保護・プライバシー保護の観点から、望ましいことである。したがって必要以上の記述は仮に情報が得られたとしても、行わないことの方が望ましい場合もある。

F3

たとえ判明したとしても、次の情報については、これを記録しない。

- 1) 自宅の電話番号
- 2) 自宅の住所、連絡先

F4

典拠データ作成・修正時に根拠とした書誌情報が、定型導入語句「SRC」「EDSRC」と共に記入されている場合がある。

「SRC」は新規作成時の、「EDSRC」は修正時のものであることを意味する。